

93 定期健康診断で事故リスクが見える！

93 定期健康診断で事故リスクが見える！

2月19日、私は東京都トラック協会の事故防止大会で、「トラック運転者の健康管理と事故防止について」定期健康診断の活用から」をテーマに講演しました。テーマ設定の背景には、健康起因事故の急増(平成23年は17年の2倍)があり、今後はドライバーの高齢に伴い、さらに進展することが予想されるからです。講演を通じて伝えられたことは大きく2点です。

◆定期健康診断は受診率100%を目指して

1点目は、中小規模事業所では定期健康診断の受診率が低い↓ぜひ受診率を100%にしたい。未受診者の中にこそ病気をコントロールできない赤信号の人が潜んでいます。

春の定期健康診断のシーズンもすぐそこまで来ています。定期健康診断の受診は、労働安全



《全日本トラック協会・大阪府トラック協会 SAS検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)
副理事長 作本 貞子
「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
TEL : 06-6965-3666
FAX : 06-6965-5261
東京オフィス TEL : 03-3295-1271
E-mail sakumoto@ochis-net.com
HP <http://sas.ochis-net.jp/>

衛生法において、事業者・労働者ともに義務が伴っています。これは当然、コンプライアンス上、クリアしていただくべき問題なのですが、トラック事業者の場合はそればかりではなく、「事故のリスクさえも見える」という大きなメリットが期待できますので、事故防止という側面からも100%受診を目指していただきたいと思えます。

2点目は有所見率が高い(病気の人が多い)↓健診結果を踏まえて、生活習慣改善や受診・治療、適正配置などの事後措置をすれば、ほとんどの健康起因事故を未然に防止できます。

◆トラック事業者様のお悩み
それでは「トラック事業者様の目線」から、どうして100%受診ができないのか、どうして

多くの事業者様は健診後の事後措置に頭を悩ませているのかを考えてみたいと思います。

受診に際しては、「まず勤務時間がバラバラで一斉に受診できない」「少人数が各地点に散らばって配置されている」「適当な健診機関が見つからない」などが、その理由として考えられます。受診後の措置については、「健診結果が専門的で分かりにくいので手つかずになる」「医療機関によって検査基準が違うので管理できない」「ドライバーは何と言って受診を勧めたらどういふか分からない」などが挙げられるのではないのでしょうか。事業者様の立場からすれば、「分かっていないけど、難しいね」が、本音かもしれませぬ。

そこでOCHISでは、お困りの事業者様の少しでもお役に立てればと、定期的に「健診結果データの見方&活用勉強会」(無料)を開催しています。次回は13日に大阪府トラック総合会館で開催します。詳しくはHPでご案内しておりますのでぜひ活用ください。

(次回は4月8日号に掲載)